

第5学年2組 図画工作科学習指導案

指導者 萩庭冠那

1. 日時・場所

平成19年12月5日(水) 5校時 13:30~14:15 図工室

2. 題材名

「太郎さんに挑戦」(10時間扱い)

(鑑賞)

3. 活動の指針(活動を通して育てたい力)

D-よさ・美しさを感じる心

身近な造形作品、及び環境、材料などに関心をもって見たり表現したりすることで自分らしい感じ方や見方を深め、自分の表現に生かしていくことを大切にする。

4. 活動の指針と題材のかかわり

明るく活発な子が多く、やるべきことに対してきちんと取り組もうとする子が多い。10月にとったアンケートでは、クラスの2/3以上の子が図工が好きであると答えている。また、立体が好きであると答えた子どもがクラスの1/3以上であり、絵が好きであると答えた子どもは1/3弱で、版画や粘土が好きであると答えた子どもが1/6ずつであった。この結果から、ほとんどの子が図工が好きで、絵、立体、版画、粘土と自分の好きな題材や得意であると感じている題材がそれぞれの子によって違いがあることがわかる。絵と版画、立体と粘土というように分けて考えると、クラスの実態として絵に表すことが好きな子たちと、ものをつくるのが好きな子たちが半々であることがわかる。これらの結果から、今回の創作活動の時間には、自分が取り組みたいものに取り組みめるようにしていく。

また、これまでの学習で取り組んだ題材では立体作品の「光のオブジェ」がとても楽しかったと答えた子が半数以上であった。

また、活動の様子を見ていると題材のテーマがよりはっきりしていることで子どもたちの思いがふくらみいろいろな発想が出てくることを感じた。「光のオブジェ」では光に当てたときに自分の作品がどのようになるかを試行錯誤し、繰り返し光に当てながら自分の作品をつくっていた。

美術館見学の鑑賞学習は初めてであるので、子どもたちに、自分らしい見方や感じ方を尊重し、岡本太郎さんの作品のよさや美しさなどに親しみを持ち、それらを大切にしたいと思う。また、美術作品に対して自分は岡本太郎さんの作品をこのように感じたんだ、ということを伝える方法として創作活動を取り入れることにした。

前期の学習では、「季節を感じて」(絵)光のオブジェ(造)「こんなとき感じることを思うこと」(絵)等の作品に取り組んできた。どの題材でも自分の思いを大切にできるように、思いを形にする前にどんな作品にしたいかイメージをもたせるようにし、意欲的な活動ができるようにしてきた。

今までに、「鑑賞」の活動としては、友だちの作品を見合い感じたことやよさを伝え合うことをしてきた。今回は岡本太郎さんの作品を見て、自分の思いをふくらませ想像

の世界を広げることへつなげていきたい。思いをふくらまし、自分の感じた岡本太郎さんを表現していきたい。子どもたちひとり一人が感じたことを認め、大切にしながら作品を作る喜びを感じられるようにしたい。

今回の学習で、見たものをそのままきちんと写すことや、きちんとした線で描くことだけが美しいという見方だけではなく、岡本太郎さんの作品から作品をつくる時の見方を柔軟なものにつなげることができるようになりたいと考える。。今まで子どもたちの中にあつたイメージや、物に対する見方、捉え方などを広げるきっかけとしたい。自由に自分の思いをふくらまし、表現することの喜びを感じられるようにしたい。

5．今年度の研究の重点として

(1)「思いがふくらんでいく」ための具体的な手だて

今回の題材「太郎さんに挑戦」では、まず子どもたちの思いがふくらむきっかけとすするため、事前に作品カードを見て題名をつけたり、ゲームを行ったりしながら作品に対する興味や親しみを持てるようにしたい。そうすることで、美術館へ行った時に作品に対する親しみがより大きくなり、自分なりの感じ方を深めることへつなげると考える。

また、岡本太郎さんのビデオを見て岡本太郎さんの生き方や、作品にかける思いや岡本太郎さんがどんな人であるのかを知り、実際の作品を見てみたいという思いをふくらませて作品にであわせたいと思う。

美術館見学では、実際の作品にふれることがなにより思いがふくらむことへつなげていくと考える。

また、学芸員さんの話の中に岡本太郎さんの人となり、生き方を含めて話をしてもらうことにした。そうすることで太郎さんが作品を対してどんな思いで作り上げてきたのか、どんな気持ちで生きていたのかを感じさせたいと思う。

そして、ワークシートに自分が感じた太郎さんを書くことで、改めて自分の感じた思いをふり返る手立てとしたい。

作品作りをしている間は、太郎さんの作品がいつでも目に入るようにパネルや子どもたちと共に考えた太郎さん「色・形・イメージ・意味」のテーマを大切にするように掲示しておき、子どもたちの実態に合わせより意欲的に活動できるように「太郎さんに挑戦」というタイトルにした。

(2)「思いがふくらんでいく」ための創造的な技能

平面作品の場合には、絵の具の他にポスターカラー、ポスカなど用意し、さらに数種類筆、ハケ、ローラーを揃えるようにした。今までの筆だけでなくハケやローラーを使い太い線をだせるようにしたい。

また、今までに経験している技法をいくつか自由に使えるようにするコーナーを設定する。技法体験で作った作品を切りとり使うこともよいことにする。

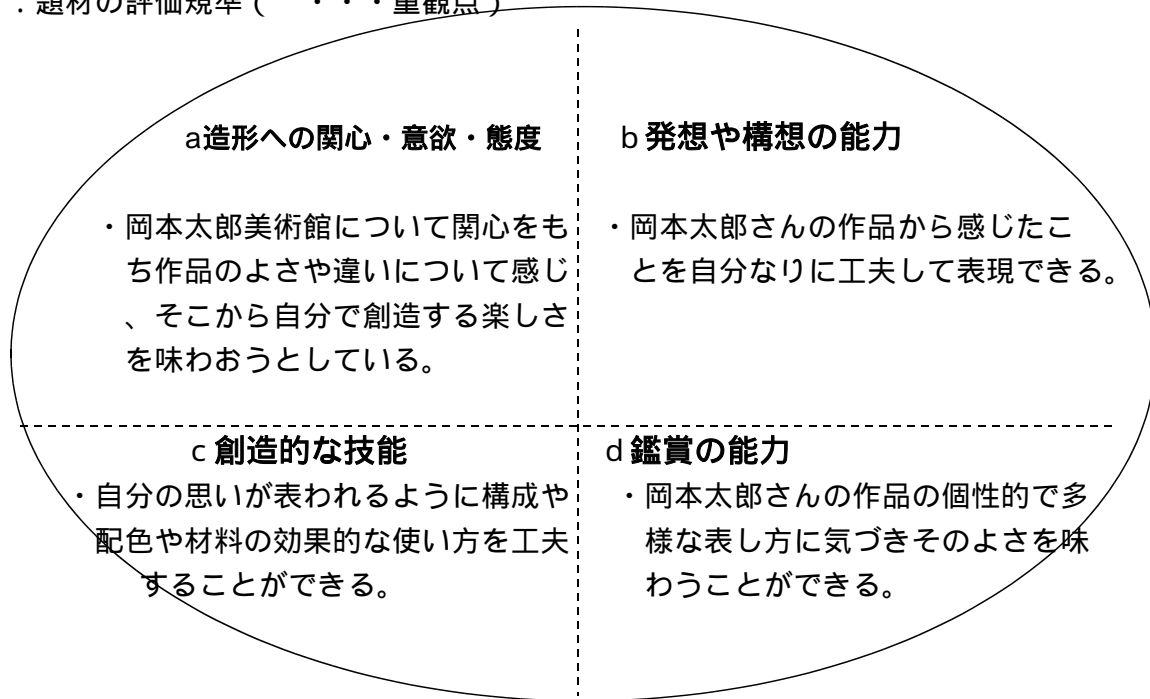
立体作品では、色を付けた粘土、乾いた粘土に着色したもの、ペットボトルに着色したもの、その他の装飾物に着色したものを置いたり、針金を心材としたもの、ホットボンドなどヒントコーナーを用意し、つくるヒントを見つけながら自分の思いを広げる手助けとしたい。

6. 題材のねらい

岡本太郎美術館について関心を持ち、作品のよさや違いについて気づき分かち合おうとする。

岡本太郎の作品にふれ、自分なりの感じ方を大切にしながら、ものをつくったり、表現したりする楽しさを味わう。

7. 題材の評価規準 (・・・重観点)



8. 準備

(児童) 絵の具、クレヨン、ビーズ、ボタン、わた、リボン、タンポ、ビー玉、ペットボトル、空き缶

(教師) 鑑賞カード、ビデオ、岡本太郎作品カード、ビーズ、ローラー、ブラシ、金網、絵の具、ポスカ、ペットボトル、凧糸、画用紙、マジック、はけ、筆、麻糸、ボール紙、版画紙、色画用紙

9. 指導と評価計画 (10時間扱い)

時間	活動内容	教師の働きかけ
	予想される子どもの姿	【評価規準】・・・評価方法
事前		岡本太郎美術館へ行き、鑑賞活動をするのを伝える。
一次	太郎さんの作品と遊ぼう	
1		
2	「森の掟」、「座ることを拒否する椅子」の作品パネルを見て題名を	「森の掟」、「座ることを拒否する椅子」の作品パネルを見せる。
0		

分

つける。
チャックみたいにみえるなあ。
怪物がいる。
いろいろな動物がいるみたい。
目が付いてるみたい。
もぐらかなあ。
逃げている。
どんな題名にしたらいいのかな。

どんな題名にしたか、なぜそう思ったのか発表する。
悪の森。
憎しみの森海。
作品の題名、作品の意味を知る。

なるほど、題名を聞くと意味が分かる気がする。
おもしろいな。
すごい、本当にそんなことを表しているんだ。

岡本太郎さんについてのガイダンスビデオを観る。

鑑賞カードを書く。
すごい。
本当はいろんな意味があったんだ。
適当だと思ってたけど、ちがった。
こんなにいろいろ考えていると思わなかった
自由に作品を作っているんだと思った。

作品カードでゲームをする。
楽しそうだな
何を表しているのかな
みんなに伝わるように・・・

どんなものが描かれているのかに気づけるように声かけをし、それぞれの考える題名がつけられるようにする。
「題名とは」題名の持つ意味について考えるようにする。

作品の題名を伝え、どんな意味があるのか簡単に話をする。

岡本太郎さんについてのガイダンスビデオを観ることを知らせる。
・岡本太郎さんの写真や本を見せ、興味をもちながらビデオ鑑賞ができるようにする。
鑑賞カードにビデオを観た感想を書くことを知らせる。

カードゲームの遊び方を知らせる。
2種類（一言連想ゲーム、イエス・ノーゲーム）
子どもたちが感じたことや考えたことを認め、美術館への関心を高めるようにする。

【関】・・・発言・つぶやき・ワークシート

<p>二次 1 3 5 分</p>	<div data-bbox="584 293 1067 371" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>太郎さんに会いに行こう</p> </div> <p>作品を鑑賞する。 ・ギャラリートーク</p> <p>早く見たいな。 何を表現してるんだろう。 なんかおもしろいな。 これも作品なんだあ。 みたいだ。 この作品知ってる。</p> <p>作品を鑑賞して、自分の感じた太郎さんや感じたことを自由に書く。</p> <p>赤のイメージがある・・・ エネルギーを感じる。 原色の世界だなあ。 おもしろい形がたくさんあるな。 なにを考えているのかわからない。</p>	<p>学芸員さんと一緒に作品を観て回ることを知らせる。</p> <p>一緒に観て回りひとり一人の感じ方を引きだし、感じたことを認めるようにする。</p> <p>いろいろな作品を観て、自分が感じたことを大切にするように伝える。</p> <p>作品を鑑賞して、自分の感じた太郎さんや感じたことを自由に書くことを知らせる。</p> <p>それぞれが感じたことを認める。</p>
<p>三次 1 8 0 分</p>	<p>岡本太郎さんの作品を観て感じた思いからどんな作品が作りたいか考える。</p> <p>絵にしたいから・・・ 赤のイメージがあるから・・・ 大きな作品にしたい。 原色の世界をあらわしたい。 おもしろい形にしたいなあ。</p> <div data-bbox="515 1731 1235 1798" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>太郎さんに挑戦（自分の感じた太郎さん）</p> </div> <p>平面作品にする人は、用紙、イメージにあった画材を選び作品作りを始める。</p> <p>この紙がおもしろそうだな。 色画用紙に描こう。 の世界みたいだね。</p>	<p>岡本太郎さんの作品を観て感じた思いからどんな作品が作りたいか投げかけ、実際に作ることを伝える。</p> <p>平面作品にする人は、用紙、イメージにあった画材を選び作品作りを始めることを知らせる。</p> <p>用紙はボール紙、段ボール、チップ紙など質感の違うものがあり、大きさも</p>

本
時
4
5
分

この色とこの色を並べるときれいだね。

ビー玉をたくさんつけたいな。

色で のイメージにしたい。

いろんな物を貼り付けたい。

どうしようかな。

どんな色にしよう。

立体作品にする人は、材料を準備し
思いのままにつくる。

粘土を使おう。

ペットボトルを使ってつくろう。

針金ハンガーを心材にしよう。

なんか思いつかないなあ。

どうやってつけばいいかな。

出来上がった作品に題名をつける。

を想像したから、 の世界。

生命

心の中

選べることを知らせる。

以前に作ったいろいろな技法で描いた
模様も使えることを伝え、自分の思い
に合ったもので作り上げていくように
伝える。

平面作品にする人で何から描き始めたら
いいのかわからない人には、手で
見ることのできる作品カードを配り、
自分が気に入ったキャラクターを探し
画用紙に抜き出して描き、それを切り
取り貼り付けるようにすることを伝える。

切り取ったキャラクターを中心に、自
分の思いを広げていくことを伝える。

太郎さんの色の特徴をふり返り、色を
混ぜすぎないようにすることを伝える。

自分の思いを表現するために必要な材
料を準備し、いろいろな角度から眺め
思いのままにつくることを伝える。

自分の感じた太郎さんを、それぞれの
用紙の特徴を生かして色・形・イメ
ージを考えながらつくることが伝える。
太郎さんの作品を参考にしながら、作
品づくりを進めるように助言する。
ホットボンドや両面テープなど素材に
合った接着方法を提示する。

出来上がった作品に題名をつけること
を伝える。

【発】・・・ 活動の様子・鑑賞カ
ード・発言

【創】・・・ 活動の様子

四次 4 5 分	作品発表会をしよう	
	作品を見せ合って、題名、自分の感じた太郎さんについて発表し、聞いた人は感想を書く。題名についてはどうしてそうつけたのか話す。	できあがった作品をみんなで鑑賞し合う場を設け、それぞれの作品を認める。友だちの感じた太郎さんを聞いて自分が感じたことを書くように知らせる。 【鑑】・・・活動の様子・表情・発言・ワークシート

10 . 本時の活動内容 (8 / 10 時間)

(1) 目標

岡本太郎さんを感じ、自分の思いを表現する。

(2) 展開

活動内容 予想される子どもの姿	教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
太郎さんに挑戦 (自分の感じた太郎さん)	
<p>本時の活動を確認する。</p> <p>色や形を意識して作品をつくる。</p> <p>ぼくは 色を使い表現したい。 わたしは外に伸びるような形にしたい。</p> <p>おもしろい線を加えたいな。 大きなものにしたいな・・・ 画用紙の上にビーズを貼りたい。 と を組み合わせてみよう。 の雰囲気にしよう。 粘土をもっと伸ばしたい。 粘土に色をつけたい。</p> <p>どうやって色をつけたらいいのかな</p>	<p>本時の活動に見通しをもたせるよう促す。</p> <p>子どもたちが自由に表現出来るように、材料、用具を準備する。</p> <p>太郎さんになったつもりで、自分が感じたことを想像しながら作品をつくっていくように伝える。</p> <p>太郎さんの作品をヒントに色や形を意識しながら作品をつくることを知らせる。</p> <p>以前に技法遊びで作ったいろいろな模様も作品に使ってよいことを伝える。</p> <p>クレヨン、絵の具、ポスターカラーなど自分のイメージに合った画材で描くように伝える。</p> <p>ヒントコーナーに絵の具を混ぜた粘土や直接彩色した粘土があるのでそれをヒン</p>

自分の作品をよく観察する。
にもみえてきたなあ。
この線を付けたしてみよう。
この部分をもっと引きのばそう。
色はやっぱり 色と 色で表現しよう。

なんだかあまりイメージがふくらまないな。

作品を見合い、途中段階での作品を紹介しながら、自分の感じた太郎さんを発表する。
太郎さんの力強さを感じて・・・
太郎さんのエネルギーを感じて・・・
色が多いから・・・ のイメージだね。
さんの作品おもしろいね。
さんの作品はどんなふうになっていくのかな。

トにするように伝える。
自分が描いている平面作品や立体作品をいろいろな角度から観察するように伝える。

平面作品にしている子どもたちの中でキャラクター抜きをした子には、そのキャラクターのどこが好きか聞き、どんなイメージをもったのかふり返るように助言する。立体作品にしている子には、自分が何を表現したいのか聞き、自分が感じたことをふり返るように声かけをする。

【発】・・・岡本太郎さんの作品から想像した自分の世界を表現しようと工夫している。

活動の様子・発言

【創】・・・自分の思いが表われるように構成や配色や材料の効果的な使い方を工夫することができる。

活動の様子

途中までできた作品を何を表現しているのか紹介し、自分の感じた太郎さんはこうだということを伝え合うことを知らせる。
離れて見たり近くで見たり、作品の特徴をつかめるように言葉かけをする。

